

No. 2945 『イベントトレーディング入門と東日本大震災』

羽根英樹氏

パンローリングから出版されている『[イベントトレーディング入門](#)』という書籍があります。たまたまこの本が出版される直前に編集部でこの本を見て「これは面白い本ですね」と言った記憶があります。というのも、海外で出版された書籍であるにも関わらず、日本の事例が述べられていたからです。その事例とは、第7章「地震と津波」で、1995年の阪神大震災だったのです。そして、私が編集部を訪れたのが2011年の2月。東日本大震災が発生するわずか一ヶ月前だったのです。本書は2月下旬に書店に並びましたので、震災前に読むことができた読者も多かったはずですが、今回はイベントトレードの一環として、この本に書かれている阪神大震災の事例がどれくらい東日本大震災にあてはまったのか検証してみたいと思います。

まず輸出関連株のトヨタ(7203)と東芝(6502)について両者とも、震災後下落していると述べられています。確かに1995年の両者の値動きをみると(図1、2参照)、震災後しばらく下落が続いているのが見て取れます。これが2011年の東日本大震災ではどうだったかという、震災直後の乱高下の後は、もみ合いが続きますが、年の後半に下落しています(図3、4参照)。

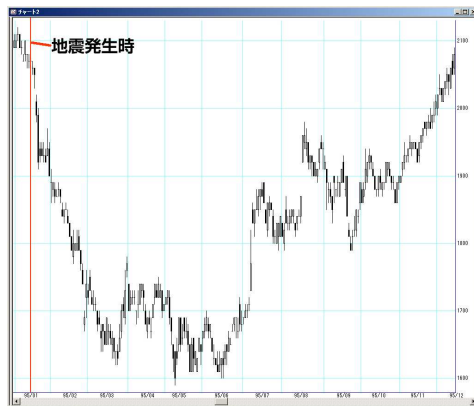


図1. トヨタ自動車(7203)1995年

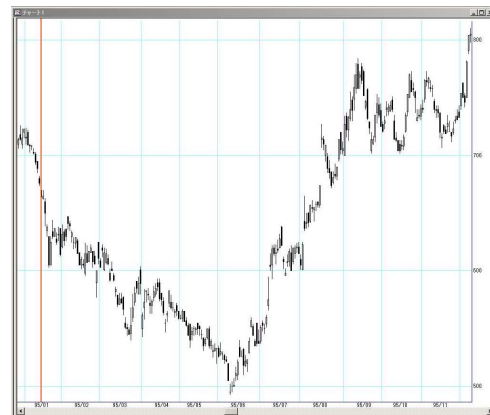


図2. 東芝(6502)1995年



図3. トヨタ自動車(7203)2011年



図4. 東芝(6502)2011年

また本書では震災後に下落するセクターとして保険を上げています。1995年の東京海上火災(8751)をみると、確かに震災後しばらくは下落しているのがわかります。

Pan-ReportTM

発行 PanRolling Inc.
年間購読料 63,000 円
※無断転用禁止

#6F,7-9-18,Nishishinjuku,Sinjuku-ku,Tokyo,Japan,160-0023 〒 160-0023 東京都新宿区西新宿 7-9-18-6F fax03-5386-7393



図5. 東京海上火災(8751)1995年

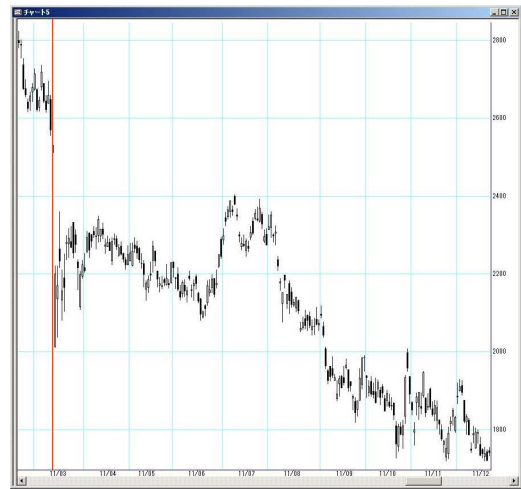


図6. 東京海上火災 HD(8766)2011年

同様に2011年の**東京海上火災ホールディングス(8766)**でも震災後、かなりの期間にわたって下落しています。ここまでは、やや長期のトレード事例ですが、少し短期の事例として、建設株について触れられており、具体例として**三井住友建設(1821)**が挙げられています。建設会社は、震災復興に欠かせない存在であるだけに思惑がはたらくのでしょう。図7に1995年阪神淡路震災前後のチャートを載せます。そして、図8が2011年東日本大震災の三井住友建設です。いかがでしょう？あまりにも同じような値動きに驚かされます。まさしく歴史は繰り返すといったところでしょうか。

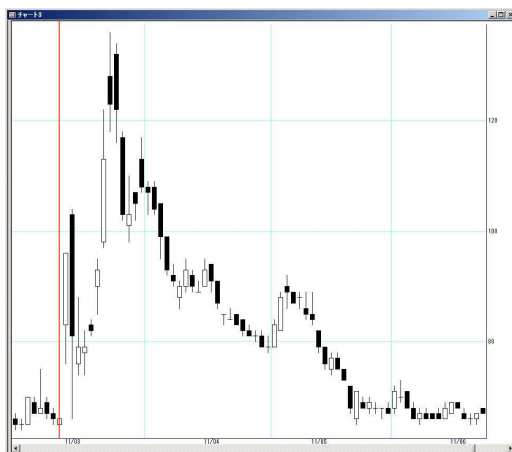


図7. 三井住友建設(1821)阪神淡路大震災前後



図8. 三井住友建設(1821)東日本大震災前後

本書は地震津波以外にも、インフルエンザやテロといった事件の影響がどのようにマーケットに及ぼすのかについて書かれている本です。イベント発生時からの投資家行動を研究することは、イベントトレードの基本であり、そのような視点からマーケットの動きを推察するという習慣が大切だと思います。イベントトレードを志したい方は、本書を読んだ後、書かれている事例について、自分で検証してみるということ必ずすべきです。自分で検証することでより理解が深まりますし、新たな発見をすることがあるからです。最後にこのような災害や事件のイベントトレードで稼いでも決して他言しないことをお奨めします。トレードをしない一般の人にとってこのようなイベントで利益を上げることは、「他人の不幸で儲けている」としか映らないからです。